

# ラモーナイ王の父に ふくいんをのべつたえる アロン

だい25しょう



アロンとその兄弟たちは、主のみたまにみちびかれてニーファイの地へ行き、ラモーナイ王の父にふくいんをつたえました。父王はレーマン人の王でした。(アルマ22：1)



「わたしはアンモンの兄弟です。」アロンは言いました。王は、アンモンの親切なたいどやことばを、ずっと心にとどめていました。(アルマ22：2-3)



「神を信じますか」ととわれて、王は、「分からないが、アロンが神がおられると言うならしんじよう」と答えました。アロンは、「たしかに神はいらっしゃいます」と言いました。(アルマ22：7-8)



アロンは、せいぶんを王に読んで聞かせ、ちきゅうのそうぞうや、アダムのだらく、イエス・キリストのしめいについて教えました。(アルマ22：12-14)



それを聞いて王は、「せいいいをうけて、神とともにくらすよういをするためには、どうすればよいか。そのためなら、どんなことでもする。王のくらいをすててもよい」と言いました。(アルマ22：15)



そこでアロンは、王にひざまずき、しんこうをもって神にいのる  
ように言いました。王は、つみをかんぜんにくいあらためるひつよ  
うもありました。(アルマ22：16)



王はひざまずいて、いのりました。「神がいらっしゃることを知  
らせてください。そうすればわたしは、つみをぜんぶすてます。」  
(アルマ22：17-18)



すると王は、しんだようにじめん<sup>お</sup>にたおれました。それを見<sup>み</sup>たき  
さきは、アロンたちが王をころしたのだと思<sup>おも</sup>いました。(アルマ  
22：19)



きさきはしもべたちに、アロンとその兄弟<sup>きょうだい</sup>たちをころすようにめ  
いじました。ところが、しもべたちがおそれたので、きさきはつか  
いをやって、ほかのものにころさせよう<sup>お</sup>としました。(アルマ22：  
20-21)



たみがおおぜいおしよせて来て、さわぎがおこる前<sup>まえ</sup>に、アロンが  
王の手をとって、「立ちなさい」と言<sup>い</sup>うと、王は立ち上<sup>あ</sup>がりました。  
(アルマ22：22)



王は、おそれるきさきやしもべたちをおちつかせて、ふくいんを  
教<sup>お</sup>えました。こうして、みながイエス・キリストをしんじるよう<sup>お</sup>  
になりました。(アルマ22：23)